

平成 24 年度「みえの現場・すこいやんかトーク」(津市) の概要

2月16日(土)に津市の県津庁舎で「みえの現場・すこいやんかトーク」を開催しました。

当日は、「津市ユニバーサルデザイン連絡協議会」の皆さん9名の方にお集まりいただき、活動内容や将来への思い、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。



【参加者からの発言】

参加者の皆さんから、以下のようなご意見をいただきました。

- 津市内の小中学校等でユニバーサルデザイン講座を開催(23年度実績1800名の児童、生徒が受講)し、講座受講生によるユニバーサルデザイン発表会を開催している。このような発表会の開催は、県内では津市のみである。
- 津市役所に4人のユニバーサルデザインを担当の職員がいて活動しやすい環境だ。
- 自分たちだけでなく、地元の社協、自治会等関係者を巻き込みながら、「見て、聞いて、体験して」をコンセプトに活動している。子どもたちには、「自分たちはどうしたらいいか」を考えてもらうよう研修している。

香良洲で津波防災の観点に特化して活動している。ハードのみで津波防災対策が出来るのではなく、ソフト対策が重要である。

子どもに対して普及啓発することで子どもから家庭にユニバーサルデザインの考え方をもち込んでもらうことを意識している。心のユニバーサルデザインが大事である。

おもてなしの心はユニバーサルデザインに通じるので、子どもたちだけでなく、大人にもユニバーサルデザインを啓発していきたい。

県のホームページにあるハザードマップの情報が、ハンディキャップのある方に伝わっておらず、視覚障がい者に分かるよう津波のリスクが大きい志摩市について立体化した。視覚障がい者に触ってもらったところ、「教えてもらったことがなかった」との感想が寄せられた。

小学生にユニバーサルデザインの講座で話しをすると感想文や応援メッセージがたくさん送られて来て、大変嬉しい。笑顔が出る生活が送れるように活動している。地域の方も参加したタウンオッチングで通学路が安全かを確認し、安全でなければ大工さん、左官屋さんに材料費のみのボランティアで協力いただきスロープを作ったり、電柱を動かしたり、側溝のふたを修繕したりして安価にできるまちづくりでユニバーサルデザインにつなげている。

退職後に人に喜んでもらえることをしたいということで高齢者などの弱者の方の住宅診断を始めた。サラリーマンでは味わえない経験が出来ている。

平成 20 年度に旧津市内の学校でのユニバーサルデザイン教室の依頼は 0 校だったが、23 年度は 1 8 0 0 名の児童、生徒の受講となったことは、大変嬉しい。

ユニバーサルデザイン講座の受講後に子どもたちが、大工さんからもらった木で自主的に車椅子用駐車場マークの看板を作ってくれた。(南が丘小学校、家城小学校)

平成 18 年に市町の福祉施設で初めて「思いやり駐車区画」を福祉会館の駐車場に作り喜んでもらえた。

久居地区で避難所マップを作成し、各戸に配布した。

企業にユニバーサルデザインの研修を PR したところ、企業が独自に取組をしてもらっているのが嬉しい。例えば、JA が社員向けにユニバーサルデザイン養成講座を開催したり、百五銀行では、現在は新入社員研修に取り組みてもらっている。また、三重交通では、バスに車椅子で乗車した際ブレーキをかけた時の体験を社員研修してもらっている。

Q 今後、活動していくうえでの課題や、その課題を解決するために行政や企業などに望むことは？

県の予算が減らされている。以前は、30 人の研修の場合に講師は 1 人から 2 人だったが現在は、1 人でやっている。ユニバーサルデザインは、スパイラルに進めていかなければならず、終わりが無い取組だ。

「防災ノート」の活用があまりされていないように感じる。

24 年 7 月から 12 月にかけて伊勢湾岸沿いの 6500 軒の家屋を訪問し、住民の声を聞いた。津波の想定が発表されているが、住民の方にどこまで説明が行き届いているかと感じた。津波対策では、紙芝居、歌などでソフト対策を行うことが必要

だ。

伊勢湾岸沿いの市町の大通りに津波の意識を住民に持ち続けてもらえるよう、火の見やぐらを造るべきだ。また、三重県に全国初の津波防災センターを建設してはどうか。

車道と歩道の段差等があるため、電動車椅子が歩道を走行できず、車道を走行している所がある。国、県、市の連携をして欲しい。

後からユニバーサルの視点で確認するのではなく、最初から様々な視点（視覚障がい、聴覚障がい、外国人など）で関わってもらうことが大事であり、そうすることで外出や避難につながる。

津市内の小中学校でもユニバーサルデザイン教室の取組に格差があり、学校現場における福祉の取組を進めて欲しい。

夏休みに学校教職員向けのユニバーサルデザイン研修を開催しているが、教職員の参加が少ないので是非お願いしたい。研修を受講してもらえないと先生に浸透しない。

新県立博物館では、段差の解消等のハード面のユニバーサルデザインだけでなく、レプリカなどで視覚障がい者の方が触ることで楽しめる展示も必要だ。

【知事の発言】

皆さんからのご意見を受け、知事からは次のような発言がありました。

県に入ってくる歳入が減っているために歳出を減らさざろう得ない。ユニバーサルデザインの関係の予算だけが減っているわけではない。使い方のアドバイスをいただけたら有り難い。県と市でユニバーサルデザインの重複した事業を行っていないかを確認したり、又は連携して事業を行うことで効果を高めるなど工夫していきたい。

「防災ノート」の活用については、頑張っているところもあり地域差がある。

津波やぐら津波防災センターについては、面白いアイデアなので皆で議論していきたい。

教職員の研修の参加については、せっかく子ども達が変わってきているのに、子ども達と向き合っている先生たちに浸透しないのは、もったいない。特に夏休み中の開催なので現状、声かけを教育委員会に確認したい。

住民の皆さんにユニバーサルデザイン、津波の危険度等まだまだ浸透しきれていない点については、地域差があり、頑張っている地域もある。命を守ることに地域差があってはいけないので、津波の危険度と併せてどの部分で浸透が弱いのか市町と現状分析して考えていきたい。



【津市ユニバーサルデザイン連絡協議会とは】

津市内でユニバーサルデザインのまちづくりを目的に活動する団体間の連携を深めるとともに、行政等の関係機関と協働してユニバーサルデザインの普及啓発を推進することを目的に平成21年2月に設立されました。

平成24年度は、津市内の小中学校等でのユニバーサルデザイン講座(30回(平成25年2月7日現在))における講師を務められたほか、ユニバーサルデザイン講座を受講した小中学生によるユニバーサルデザイン発表会の開催などに取り組まれています。